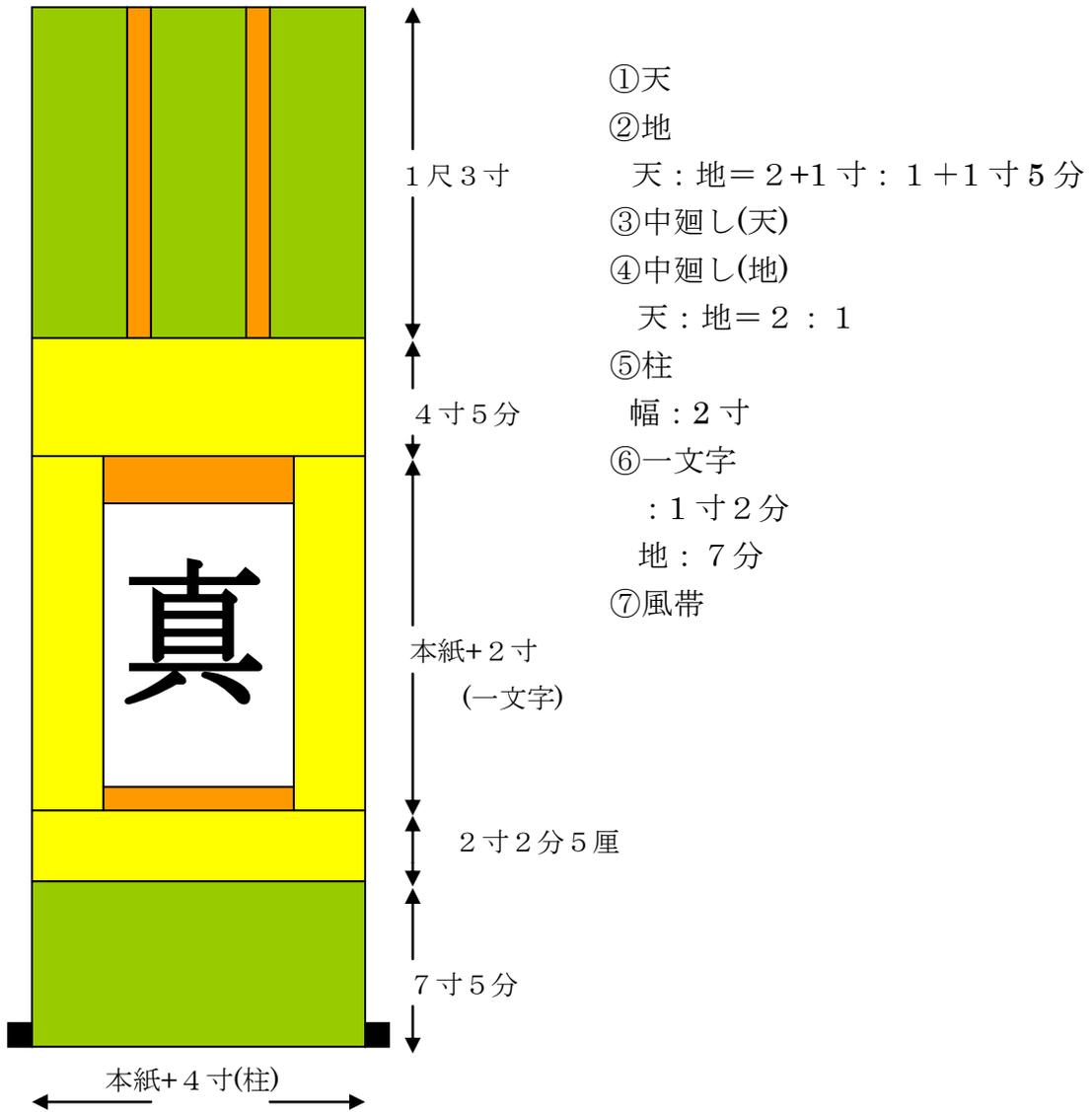


表装講座 (1) . . . 軸 . . .

各部名称・仕上がり寸法



熱田の森文化センター 講師 筒井俊雄

作業工程

- (1) 裂見積もり・・・天地(無地)、中廻し、柱、一文字、風帯
- (2) 本紙裏打ち・・・肌裏 千石(中肉)
- (3) 裂裏打ち・・・肌裏 千石(中肉)
- (4) 本紙裏打ち・・・増裏 千石(極薄)
- (5) 裂裏打ち・・・増裏 千石(極薄)
- (6) 本紙化粧断ち
- (7) 裂化粧断ち 糊止め
- (8) 切り継ぎ(付廻し)
- (9) 化粧断ち
- (10) 耳折り 耳糊
- (11) 総裏
- (12) 仕上げ準備
- (13) 仕上げ
- (14) 掛け軸のしまい方・保管の仕方
- (15) 刷毛の使い方、手入れの仕方

(1) 裂(きれ)見積もり

・裂(無地 柄物 金襴) ・一尺指し ・二尺指 ・鉋

1. 本紙に合わせて、色柄を決める。
2. 天地の採寸。天1尺3寸5分(仕上がり1尺3寸)+地8寸(仕上がり7寸5分)=2尺1寸5分で糸を抜き、はさみで裁断。
3. 中廻しの採寸。縦は4寸5分(仕上がり寸法)+2寸2分5厘(仕上がり寸法)+5分で見積もる。柄物は糸抜きをせず、柄を見ながらはさみで裁断。
4. 柱の裁断。縦本紙+4寸、幅5寸で裁断。
5. 一文字の裁断。縦2寸2分、幅本紙+5分で裁断。
6. 風帯の裁断。縦1尺5寸、幅2寸で裁断。
7. 裁断が終わったら耳を1寸間隔で切り余分な糸を掃除しておく。

*見積もり後の寸法

天地	縦・2尺1寸5分	幅・本紙+5寸
中廻し	縦・7寸5分	幅・本紙+5寸
柱	縦・本紙+4寸	幅・5寸
一文字	縦・2寸2分	幅・本紙+5分

(2) 本紙裏打ち・・・・・・・・肌裏

・薄糊（一番糊 1：水 3） ・本紙 ・千石(中肉) ・糊刷毛 ・撫刷毛
・添え木 ・霧吹き

1. 裏打ち紙の見積もり。肌裏は本紙幅+2寸長さは+3寸程度。
2. 本紙を裏側に向けて左側に置き霧を吹く、このとき水分過剰に注意する。撫刷毛で皺を伸ばす。墨が固まっている所は、霧を吹いてから少し時間を置くと、伸ばしやすい。
3. 伸ばした本紙の上に千石(中肉)を置き、右側を糊で固定して紙を右側に折り返して、薄糊を塗っていく。
4. 添え木を使い千石(中肉)を撫刷毛で本紙に貼り付けていく。
5. 平干しにして乾かす。(場所がない時はかり張りに上側だけつけて乾かす。)

(3) 裂(きれ)裏打ち・・・・・・・・肌裏

・かた糊(一番糊原液) ・裂 ・千石(中肉) ・糊刷毛 ・撫刷毛
・添え木 ・霧吹き

1. 裂を裏側に向けて左側に置き霧吹き。あまりたくさん霧を吹かないこと。(水分が多いと染みの原因になる。)
2. 撫で刷毛で皺を伸ばし、布のゆがみを修正する。裂の上に千石(中肉)をおき右側を糊で固定して紙を右側に折り返して、かた糊を塗っていく。*糊が塗りづらいときは、糊を塗った面に霧を吹くと塗りやすくなる。
3. 添え木を使い千石(中肉)を撫でばけで裂に貼り付けていく。(皺が入った時は、もう一度紙を上げて皺を伸ばす。)
4. 平干しにして乾かす。(場所がない時は仮張りに上側だけつけて乾かす。)

(4) 本紙裏打ち2・・・・・・・・増裏

・薄糊（一番糊 1：水 3） ・本紙 ・千石(極薄) ・糊刷毛 ・撫刷毛
・霧吹き ・添え木 ・へラ ・一尺指 ・カッターナイフ

1. 仮張りからへラを使って、本紙をはがす。
2. 本紙の状態を確認。
3. 四辺を本紙+5分程度裁断。
4. 肌裏が終わった本紙の上に極薄でさらに裏打ち。
5. 仮張りにしっかりと張り込んで裏打ち終了。

(5) 裂(きれ)裏打ち2・・・・増裏

- ・薄糊(1:3) ・裂 ・千石(極薄) ・糊刷毛 ・撫刷毛
- ・霧吹き ・添え木 ・ヘラ ・一尺指 ・カッターナイフ

1. 仮張りからヘラを使って、裂をはがす。
2. 裂の状態の確認。
3. 四辺を裂+5分程度に裁断。
4. 本紙と同様に、肌裏が終わった裂の上から極薄でさらに裏打ち。
5. 仮張りにしっかりと張り込んでおく。

(6) 本紙化粧断ち

- ・裏打ちした本紙 ・直角定規 ・定規 ・カッターナイフ ・星突き

1. 落款のあるほうの一边を切断。
2. 本紙を半分に折り(筋がつくほどしっかり折らない事)、星突きで印をつける。
3. 印と印を結んだ線で切断。
4. その一边に直角になるように直角定規を使い切断。
5. 2. 3.の繰り返し。

(7) 裂(きれ)化粧断ち 糊止め

- ・裏打ちした裂 ・切継刷毛 ・一尺指 ・二尺指 ・カッターナイフ
- ・星突き ・かた糊(白妙) ・定規

1. 天地・・・・幅は本紙+5寸、天は1尺3寸、地は7寸5分で切断。
2. 中廻し・・・・幅は本紙+5寸、天は4寸6分、地は2寸3分5厘で切断。
3. 柱・・・・幅は中心で切断、縦はそのまま。
4. 一文字・・・・天は1寸3分、地は8分で切断。
5. 化粧断ちした裂は、張り合わせて表面に出る部分はすべて糊止めする。

*化粧断ちのときに、糊止めする部分分かるように、ふちを斜めに切っておく。

(8) 切継ぎ(付廻し)

- ・切継刷毛
- ・かた糊(白妙)
- ・本紙
- ・裂
- ・一尺指
- ・定規
- ・カッターナイフ

1. 本紙を表向きに置き、一文字の裏側に糊を付け貼り合わせる。ある程度乾くまでは定規で重石しておく。
2. 一文字を本紙の幅で切断。
3. 柱の裏側に糊を付け貼り付け。左右のバランスに注意。
4. 柱の天地を切断。
5. 中廻しの裏側に糊を付け貼り付け。柱との柄のバランスを考える。傾いて貼り付けない様に細心の注意を払う。
6. 天地の裏側に糊を付け貼り付け。中廻し同様傾かないように注意。

* 付廻しの幅は、1分弱に統一しておくとう綺麗に仕上がる。

(9) 化粧断ち

- ・本紙
- ・長定規×2
- ・定規
- ・一尺指
- ・二尺指
- ・星突き
- ・カッターナイフ
- ・鉛筆

1. 本紙と柱の境に長定規を合わせ、天と地の端にヘラで印をつける。(左右)
2. 天と地を合わせるように折り返し、左右のバランスを考えて左右とも星突きで印をつける。(印がずれている時は、中心に星突きで印をつける。)
3. 印から外側へ2寸の所へ星突きで印、さらに外側へ1分の所へ印をつける。
4. 裏側にして置き、天と地の内側の印に長定規を合わせ、星突きでスジをつける。
5. 同じく外側の印に長定規を合わせ、カッターナイフで切断。
6. 縦側に半分に折り、天を1尺3寸の所に星突きで印をつける。その印の内側へ1寸と6寸の所にも印をつける。地も同じように、7寸5分の所に印をつけその内側1寸5分の所に印をつける。
7. 広げて内側の印に鉛筆で線をひき、外側の印で切断する。

* 最初に切断すると、間違えた時に困るので、まず星突きでスジを引いたり、鉛筆で線を引いたりするのを最初にしたほうが良い。

(10) 耳折り 耳糊

・切継刷毛 ・かた糊（白妙） ・ヘラ

1. 星突きでつけたスジの所で裏側へしっかりと折り癖をつけてから、かた糊をつけて密着させる。（耳折り）
2. 折り返した耳の部分にかた糊をしっかりとつける。（耳糊）

(11) 総裏準備 総裏

・上巻 ・宇田紙 ・カッターナイフ ・星突き ・一尺指
・定規 ・糊刷毛 ・切継刷毛 ・水刷毛 ・撫刷毛 ・添え木
・ピンセット ・霧吹き ・薄糊（1：3） ・かた糊

1. 上巻と宇田紙を軸幅+2寸で切断。
2. 軸助けを風帯と同じ幅でつもの。
3. 軸袋を宇田紙の余りで、上2寸、下2寸5分の幅で断ち端から4分の所に星突きでスジをつける。（あまり強くスジを付けすぎない。）
4. 軸袋を湿して鉛筆の線に合わせて置く。下の方は、軸袋の境目にかた糊を塗る。
5. 上巻きを星突きの印に沿っておく。宇田紙を5厘位の掛かりで置きよく撫でる。
6. 付廻しの所と耳折りの所をヘラでよく押える。軸助けをつける。
7. 仮張りに張り込んで乾燥。

(12) 仕上げ準備

・軸棒 ・軸先 ・八双 ・ヘラ ・カッターナイフ ・かた糊
・切継刷毛 ・定規

1. 軸棒を表具の幅より2分短く切ってカネダインで軸先をつける。
2. 八双を表具の幅より5厘長く切り隅の所をカッターで少し梳き、上巻きを貼る。
3. 風帯を作る。表(金襴)6分 裏(無地)5分5厘 折り曲げは共に1分5厘を2本作る。
4. 表(金襴)と裏(無地)をボンドで張り合わせる。
5. 張り合わせた下側と横側1分ずつのところにツユをつける。
6. 総裏をめくりイボタ蠟をぬり裏摺り玉で裏を摺る。
7. 張り手を表から見えないようにカッターで剥く。（軸袋の所は剥かない。）
8. 軸袋の所を軸幅で折り返し1分で切り、糊でつける。（上下共）

(13) 仕上げ

- ・下軸 ・八双 ・ヘラ ・カッターナイフ ・かた糊 ・定規
- ・切継刷毛 ・金鉗 ・鉋 ・紐 ・針 ・糸

1. 軸棒（下）を軸幅中心に置き軸袋に糊を塗りはる。次に裂側裏面に糊を塗り軸棒のまわりに隙間ができないように軽く引っ張りながらはる。」
2. 八双（上）を軸袋の間に置き、八双の手前と上巻の上からヘラでスジをつけ、上巻のスジを少し控えてカッターで切る。
3. 裂側裏面のスジの手前に糊を塗る、同時に上巻裏面にコの字に糊を塗り、軸袋の間に八双を中心に置き、裂側から八双につける次に上巻側をつける。
4. 軸幅から風帯1本分を引いた寸法を三等分し、外側からその寸法のところに風帯をつける。
5. 風帯の外側に鉋をつける。
6. 掛紐と巻紐をつける。

(14) 掛け軸のしまい方・保管の仕方

1. 一度軸を掛けてみて埃などが付いていないか確かめる。
2. 軸先を両手で持ち折れないように巻く。（あまり強く巻かない）
3. 風帯の下に当て紙(鳥の子)を敷き風帯を折り畳む。
4. 巻き紙を掛紐の下を通し1寸5分ほど風帯当て紙の下に差し込み軸をくるむ。
5. 巻紐を3周したら掛紐の下を二つ折りにして右側から通し左側に通す。
6. 包み紙をして箱にしまい、防虫香は上にのせておく。
7. 湿度の高くない冷暗所に保管する。
8. 年に一度、湿度の高くない晴れの日には虫干しをすると良い。

(15) 刷毛の使い方、手入れの仕方

1. 切継刷毛・糊刷毛・撫で刷毛は、使う前に水洗いして毛の部分をも根本まで柔らかくして、水気をしっかりタオルでふき取っておく。
2. 裂(きれ)の裏打ちや切継ぎの時は、糊を刷毛にしっかりとなじませておく。
3. 紙本の裏打ちや増裏・総裏の時は、いちばん糊1に対し水2.5~3で薄める。水は少しづつ入れて糊をのぼしていくとダメになりにくい。
4. 使った切継刷毛・糊刷毛は水でよく洗う。糊は毛と木の間は残りやすいので、爪でよく糊を除く。
5. 使った撫で刷毛は、親指と人差し指で揉むようにしてよく洗う。
6. 洗った刷毛は水気をしっかりタオルでふき取って、陰干しする。